

<令和3年度・社会福祉法人やまなみ会まとめ>

(1) はじめに

今年度、社会福祉法人やまなみ会は終始新型コロナウイルス感染症対策に力を入れた一年となった。圏域では昨年より蔓延したデルタ株に代わり感染力は強いものの毒性は弱くあまり重症化しないとされるオミクロン株が流行し、当法人を含め多くの障害者事業所でクラスターが発生、日々の現場はもちろん生活環境においても極度の緊張や過度の緊迫感と制限を強いられる中でコロナ感染予防に努めた。

法人内においては全職員の定期的な抗原検査、並びに利用者を含めPCR検査(計11回、延422人)を徹底するなど常に健康状態を把握し感染予防に徹するとともに従来通りの支援の保障を行ったが、やまなみ工房で発生した二度のクラスターは累計23名が罹患されるという結果を招き、この間、感染職員の休職による支援体制の弱体化は避けられず、加えて感染の不安から自主的に通所を控え自宅待機や他の福祉サービス利用も自粛するなど家族の負担は増し、同時に利用者及び家族の疲弊感は深刻化を辿り、また利用自粛の長期化による事業所の減収など運営にも大きく影響を及ぼした。

一方、感染を未然に防ぐため昨年より継続して取り組んでいる日々の対策は更に強化し、クラスター発生時以外においては常に万全の職員体制と環境対策を維持し、施設利用者の生命と健康はもちろん、一人ひとりの意思及び人格の尊重、安心できる時間と空間、そして幸せを保障し「明るく・温かく・楽しく」日常生活ができるよう一年間を通し精一杯支援に努めた。

特に利用者ならびに職員の安心安全を最優先に徹底した感染症予防対策においては常に保健所や市、県の対策課の指導に基づき、それぞれの意識・制限・行動の共有化はもちろん利用者のみならず家族を含めた自粛活動を徹底し、古紙回収や喫茶営業、イベント開催をはじめとした日々の活動や展覧会など多くの対外事業はもちろん、外部からの見学や地域交流事業、実習や研修等についても一定期間中止した。

またワクチンの接種においても希望者のみを対象に施設内において集団接種の機会を設け、家庭から地域の医療にかかることが困難な利用者も受診することが出来た。ワクチン接種については任意の判断によるものとし、関係者による現在の接種状況は約8割となっている。

感染拡大の終息が見えない状況の中、暮らしや施設内における活動スタイルは大きな変化が求められた一年ではあったが、設立当初からの理念をもとに希望者があれば障害の程度に関わらず適時受け入れを行い、それぞれのニーズや状況に応じ本人及びその家族が地域の中で心身ともに豊かな暮らしを送れる事を保障した。

現在(令和4年5月)「やまなみ工房」には90名、「ゆとりあ」には48名、「フルハウス」には4名の利用者が在籍している。

令和 4 年度においても引き続き社会福祉法人制度に基づき健全なる経営のもと、幅広く地域やボランティア団体、行政をはじめとした関係機関及び個人と連携を強化し、障害のある人に対する差別がなく、多様な価値観を認め合い、相互に人格と個性を尊重しあう社会の大切さを地域社会全体で共有するとともに、滋賀に根付く福祉の思想の流れを受け継ぎ、共感の輪を広げながら、一体となって「一人の不幸も見逃さない」共生社会づくりを目指すと同時に障害者が地域の中で心身ともに豊かに暮らせるよう充実を図りたい。

(2) 事業報告

① 理事会

令和 3 年度、理事は引き続き 6 名により構成され、理事会は例年より多く計 6 回（昨年 3 回）開催した。今年度においても主な内容については日々健全に法人経営が図れるよう審議を重ねた事は勿論、社会福祉法人制度に基づき常に適切な運営を心掛け対応を行った。今年度は事業及び決算報告、補正予算並びに次年度の事業計画及び予算、障害者就労継続支援 B 型施設「ゆとりあ」の新規事業やグループホームの必要性に関する協議、また甲賀市所有建物の財産譲渡申請を中心に、「やまなみ工房」「ゆとりあ」「フルハウス」「相談支援事業所やまなみ」の各事業が適正に運営され利用者はもちろん地域の願いに沿って充実した実践が行えるよう、また法人の経営が適正に行えるよう協議を行った。第 5 回理事会は甲南町情報交流センターで開催し、開催中の展覧会の見学会を行った。

・ 第 1 回理事会・令和 3 年 6 月 2 日（水） やまなみ工房

令和 2 年度社会福祉法人やまなみ会事業報告

令和 2 年度社会福祉法人やまなみ会決算報告

令和 2 年度社会福祉充実残額について

監事監査報告

理事長候補者の推薦について

監事候補者の推薦について

評議員選任解任委員会の召集の決議について

定時評議員会の召集の決議について

ゆとりあ菓子工房建設計画について

グループホーム建設計画について

地域生活支援拠点等の届出について

・ 第2回理事会・令和3年6月18日（金） やまなみ工房

理事長選定

業務執行理事選定

理事長、業務執行理事の職務の執行状況報告について

・ 第3回理事会・令和3年8月25日（水） やまなみ工房

ゆとりあ菓子工房建設における設計監理事務所との契約について

施工会社入札について

(株) リッシ空間コンサルティング設計の契約について

15,000,000円借入の金融機関入札について

・ 第4回理事会・令和3年12月24日（金） やまなみ工房

令和3年度社会福祉法人やまなみ会第一次補正予算（案）について

ゆとりあ菓子工房改修工事経過報告

・ 第5回理事会・令和4年2月8日（火） 甲南町情報交流センター

定款変更について（ゆとりあ菓子工房増築に伴う基本財産増）

甲賀市所有建物2棟の財産譲渡申請について

・ 第6回理事会・令和4年3月30日（水） やまなみ工房

令和3年度社会福祉法人やまなみ会第2次補正予算（案）

令和4年度社会福祉法人やまなみ会事業計画（案）

令和4年度社会福祉法人やまなみ会予算（案）

② 評議員会

令和3年度、評議員会は引き続き7名で構成され、社会福祉法人やまなみ会の運営及び経営が健全且つ適正に運営され、よりよい福祉サービスに向かうよう重要事項の議決機関としての役割を果たした。今年度は定時評議員会を1回（昨年1回）、臨時評議員会を1回（昨年なし）開催した。また臨時評議員会は甲南町情報交流センターで開催し、

開催中の展覧会の見学会を行った。

・令和3年度定時評議員会・令和3年6月18日（金） やまなみ工房

令和2年度社会福祉法人やまなみ会事業報告
令和2年度社会福祉法人やまなみ会決算報告
令和2年度社会福祉充実残額について
監事監査報告
任期満了に伴う役員改選について

・令和3年度臨時評議員会・令和4年2月16日（水） 甲南町情報交流センター

定款変更について（ゆとりあ菓子工房増築に伴う基本財産増）
甲賀市所有建物2棟の財産譲渡申請について
多機能型事業所やまなみ工房定員変更申請について

③ 法人財政

やまなみ工房においては、年度途中、コロナウイルスの影響で出勤率が一時著しく低下し、在宅支援等出来る限りの対策は講じたが結果として前年度と比較すると事業活動収入が昨年 167,643,675 円から令和3年度は 159,930,786 円と 7,712,889 円の減収となった。加えて事業活動資金収支差額も 6,569,876 円（昨年 9,172,705 円、一昨年 7,747,530 円）となり厳しい状況である。支出の面においては昨年に引き続き対外的な事業が中止となり行事や出張経費が少ないにもかかわらず、法人内新規事業（ゆとりあ菓子工房開設）やコロナ対策備品整備をはじめ、例年同様経年劣化に伴う施設修繕及びアートセンター建設に伴う建設資金の返済、その他送迎車両の整備等行ったことで前年度と比較すると結果的に大幅な減少傾向にない。今後直近3年間は定員変更による単価減が影響し収入増が見込めない状況にあるうえ、独立行政法人福祉医療機構への返済等も引き続きあるため、日々の運営においては事業活動資金収支差額の残高を計画的に残せるよう努力する。

ゆとりあにおいては、近年利用者の契約者数が増加傾向にあり、一日平均の利用率が20人を超え昨年同様安定している。事業活動収入においては昨年 45,690,789 円から 47,471,123 円となり約 1,780,334 円の増収となっている。しかし収支差額については思うほど伸びず、特に今年度は職員が1名退職した後、新たに加配することなく支援を行ったが結果的に菓子工房や花工房の開設に掛かる資金が必要になり最終的に事業活動資金収支差額は 2,115,182 円（昨年 2,782,123 円）となった。今後事業の展開に必要な環境整備は適時積極的に行うが、支援員の加配は引き続き行わず現在の状況で支援の質を低下させることなく対応を行う。また利用者の出勤は常に月平均 23 名～25 名を維持できる

よう計画的に運営を行う。

共同生活援助（介護サービス包括型）「フルハウス」においては今年度、利用者が4名になり定員を満たすことで経営面においては安定が図れている。ただコロナ感染予防の為、月一回の外出行事や年一回の宿泊行事は今年度も自粛した。本体施設のやまなみ工房のクラスター発生時にはフルハウス利用者の中にも感染者が出るなど5日間にわたり一時閉鎖をした。一年をとおしては今年度も利用者の生活保障の場として健康に留意し適切な運営を行えた。

相談支援事業所「やまなみ」においては現在21名と契約し、相談支援責任者を配置し適切に機能している。年度途中、資格継続に必要な研修会の受講が出来ておらず一部資格失効した相談員が4人もいたが2名が年度内に復職し、滞りなく業務を遂行している。また現在経営面での不安はなく、5名の相談支援員の業務においても兼務で行っているが円滑に対応を行い各事業に対し支障はない。

各事業所の運営においては今後も利用者の安全と充実したサービスを第一に、職員の処遇においても安心して職務が遂行できるよう向上と安定を目指し適切な経営を行わなければならない。

本部会計事業においては、後援会事業「募金ビン設置運動」（現在圏域85カ所、昨年99ヶ所設置）、令和3年度203,541円（令和2年度167,195円、累計3,289,966円）となっている。募金ビン活動で得た収益は毎年年度末に後援会より寄付を受け施設整備等に充てている。また8年目を迎えるYaYaYaやまなみサポーターズクラブには現在306人（令和2年208人）が加入し昨年より更に増加傾向となっているため今後も積極的に会員増を目指したい。いずれも後援会よりいただく寄附金は法人運営に対して安定した支援となっている。

本部会計については今後も理事会運営はもちろん主たる活用法、特に施設整備、及び地域交流事業を強化するため、また地域住民との相互交流の運営補助として適切な用途を検討したい。

④ 権利擁護事業

社会福祉法人やまなみ会においては利用者の権利の尊厳を保持するために、「苦情対策委員会」「第三者委員会」を3名の委員で構成している。今年度は理事長、施設長、法人本部が委員に対し活動報告や年間を通して議論したヒヤリハットを中心に報告会（令和4年4月28日＊コロナ感染に伴い日を延期したため令和4年4月に開催。）を行った。

第三者委員会及び苦情の申し立て方法や概要については例年通り4月1日付けで全家庭に委員の連絡先を含め配布し、また施設内にも掲示するなど常に相談をしやすいよう配慮している。また、引き続き社会福祉法人やまなみ会・障害者虐待防止マニュアルの改定を必要に応じ

て行い、更なる防止に向けた強化を図る。今年度も施設事故・虐待予防対策委員会の設立と「ヒヤリハット」の報告を全職員に月一回以上の提出と月一回の定例会開催の義務付けを行っている。(令和3年度ヒヤリハット数 やまなみ工房 197 件、ゆとりあ 28 件)

令和3年度においても、苦情対策委員会に申し立てを行う問題は発生しなかったが、今後も利用者にとって、よりよい施設運営と支援の向上を目指し、些細なことでも信頼と安心をもって相談できるよう、利用者及び家族には引き続き関係性を深めると同時に周知徹底する。

また、障害者差別解消法、障害者虐待防止法に基づき、引き続き障害者の安心安全に強化を図り、今年度も虐待防止委員会を中心にケース検討会議の開催並びに市主催の研修会に全職員の派遣を積極的に行った。

法人内における車両事故等については送迎中の物損事故3件、接触事故被害1件で両施設合わせて4件(やまなみ工房3件、ゆとりあ1件)。また利用者の救急搬送や緊急処置が必要な怪我等は0件。特に今年度においては警察や消防立会いの下、緊急連絡に関する警報機の取り扱いや検査を行った。今後も安全管理責任者は安全管理責任者講習を受講の上法人内において共有し施設内外において事故等発生しないよう徹底していく。第三者委員においては引き続き年一回を原則に両施設の見学及び報告説明会を開催する。

- ・苦情解決責任者： 山下 完和 社会福祉法人やまなみ会 統括責任者
- ・苦情受付担当者： 雲林院 知恵 社会福祉法人やまなみ会 法人事務局長
- ・第三者委員： 加藤 和孝 杉田 利正 寺井 和代子

⑤ 福祉サービス事業

やまなみ工房では次年度、新たに利用者2名の受け入れが決定しており、令和3年度88名であった利用者は90名となる。このことにより利用率が生活介護、就労継続支援B型とも125%を超えることが予想され、令和4年度からは定員60名から80名に変更し今後も利用者の受け入れを図りたい。

現在所在地である甲賀市には身体障害者手帳保持者が3499人(うち18歳以下が55人)、療育手帳保持者数が1,149人(うち18歳以下が263人)、精神障害者保健福祉手帳所持者660人(内20歳以下が50人)、難病(特定疾患)患者数が802人となりそれぞれに福祉サービスを必要としている。また近隣の湖南市、伊賀市を合わせるとそうした状況の方はさらに増え、既存の福祉サービス事業所では受け皿としての役割は十分ではなく今後もニーズに応じた整備が求められる。

特にやまなみ工房では一昨年ご家庭の事情により生活の拠点を入所施設に移行するなど4名の退所者があった。いずれにおいても本人、ご家族のニーズとしては継続してやまなみ工房の利用を希望していたが保護者の高齢化からなる不安や、障害の重度化によ

り家庭での生活が困難な事例が多く、同じ不安を抱える利用者や家族はやまなみ工房だけに限らず圏域においても増加傾向にある。今後も利用する障害者の願いを受け止め、それぞれのニーズに応じ適切な支援を可能にするため、環境整備や備品購入等様々な対応を図りたい。引き続き利用希望があった場合、圏域に関わらずそれぞれのニーズを受け止め状況に応じ受け入れを行う。将来的には生活の受け皿となる法人独自の新たな拠点が必要である。

ゆとりあは、20名の定員に対し今年度48名の契約者が在籍することとなる。年度途中職員体制は一名減となったが菓子工房や花工房など新規活動内容を強化したことで更にきめ細かい対応や個々のニーズに応じた作業内容の提供や専門性が必要となる。利用者については活動の選択肢も増え工賃も少しずつ向上するなど利用率も常時100%を超える傾向にある。引き続き実習や新規利用者の受け止めを積極的に行い、今後も精神障害者を主たる利用者とし、個々の特性やニーズに応じて、医療や関係機関と連携を密にしながら包括的に支援をし、本人や地域課題に沿ったサービス内容を提供したい。またゆとりあとして地域への情報公開を積極的に行い精神障害者や施設実態への理解を深めたい。

コロナの影響によりアートセンターを活用した共同での活動やカフェやイベントでの授産活動の収益増に向けた取り組みは積極的に行うことはできなかった。今後は利用者による併用利用や共同の事業展開などやまなみ会の2事業所間で更に連携を深め、協力的体制強化をもとに利用者一人一人のニーズに応えたい。

フルハウスにおいては現在4名（定員5名）の利用者が在籍している。コロナウイルス感染予防の観点から毎月のお楽しみ会や年一回の宿泊旅行については昨年に続き全て中止したため余暇支援については次年度以降内容を再検討したい。その他避難訓練は2回行った。また、月一回利用者へのモニタリングを行い、その都度利用者のニーズを明確にし、適切な支援を行っている。緊急一時受け入れに対応するため、利用者人数は当面4名で運営を行う。

相談支援事業所「やまなみ」においては管理者1名、主任1名、相談員4名で運営している（ゆとりあ職員2名、やまなみ工房職員3名、管理者は施設長が兼務）。現在両施設合わせ21名（昨年23名）の利用があるがモニタリングの作成等円滑に対応できている。法人内の事業所の職員体制においては、その都度最適な体制を図り日中活動のみならず家庭の状況にあわせ通院同行や緊急受け入れ、家族を中心とした包括支援も柔軟に行い個々のニーズに応じ支援の低下を招くことなく計画的に行うことが出来た。

引き続き職員の処遇改善においては、働き方改革を推進するため適時対応を行う。

今年度の有休取得率においては全職員が年5日以上取得し、また平日勤務においても非常勤は17時半、常勤は19時まで退勤を心掛け、別途週一回NO残業DAYを設け、休日出勤（出張）についても施設長を中心に最小限に止め十分注意を払った。

⑥ 地域交流事業

今年度においても昨年に引き続きコロナウイルスの影響を受け、見学の受け入れはもちろん、対外的な行事や出張を取り止めるなどこれまで積極的に行ってきた活動を全て自粛し、利用者の生命の安全を最優先し感染予防を徹底した。地域交流事業は当法人にとって最も貴重な体験となり特に要望の多い見学受け入れや他団体との交流会も残念ながら実現には至らず、新規ネットワークの拡大にも影響を及ぼすこととなった。

今年度においてもカフェについては通常オープンし、一時見学の受け入れも開始したが、結果的に長期間にわたり見学等の受け入れを中止し、クラスター発生時等についてはカフェ営業も自粛した。その結果、近年最盛期においてギャラリーの見学やイベント、学習会開催による来場を合わせると一年間に 3,000 人を超える来場者があったが、今年度は約 162 人（昨年 250 人）に減少した。このことにより利用者の工賃として還元するはずの見学料（一人 1,000 円）やグッズ販売も期待以上に成果が表れず厳しい状況が続いている。

ただ、甲賀市からの受託事業として展覧会の開催など継続して開催し市民に広く紹介するとともに授産活動の一環にもなった。

また現在の状況から独自の事業を開催することは難しいが YaYaYa やまなみサポーターズクラブについては後援会の基本理念を基に、今後もやまなみ会通信の発行や募金便の設置等地域に根ざした活動を展開し、やまなみ会や障害者福祉の理解へと繋がるよう取り組みを維持し法人全体で更なる会員拡大を目指すと同時に魅力ある企画を検討したい。

対面での企画は困難な状況ではあったが、今年度においても社会への情報開示を積極的に行なった。特にゆとりあの WEBSITE は再度リニューアルし、菓子工房や花工房のプレ企画や物資販売を通し地域に情報をよりよく伝え、販路拡大につながるなど効果に繋がっている。

その他、決算報告や法人情報等はやまなみ工房 WEBSITE で閲覧できるようにし、やまなみ会通信や各種行事報告を自治会の回覧板や全国各地 4,000 か所（団体・個人）に周知した他、書籍制作や映像作品制作、SNS、TV 等のマスメディアを通じた情報発信等、成果を基に地域とやまなみ会がより身近に、また密接に繋がり様々な協力を得ている。

引き続きコロナウイルスの状況を踏まえ、今後も行政や各種団体との連携や行事への積極的な参加。ゆとりあの菓子工房や花工房による販売や、やまなみ工房の作品展、喫茶営業を始めとした日々の活動を積極的に行いたい。今年度は滋賀県立美術館や海外のアートフェアなどやまなみ工房の創作物は国内外を中心に幅広く展開し、テレビ東京の番組「レベチな人見つけた」等テレビや WEB マガジンなど様々なマスメディアに取り上げられるなど高い評価を得ている。今後も専門性を高め適切なマネジメントをもって更なる発展を目指したい。

⑦ 今後の課題

やまなみ会を利用する契約者数は現在 138 名（昨年 133 人、一昨年 124 人）となった。今後においても現在の利用者を中心に、障害者と家族一人ひとりの暮らしと健康に重点をおき、法人として適切な経営を行い、個々はもちろん地域社会のニーズに沿った支援の強化と環境整備に努めたい。

また利用者一人ひとりの願いと人権が尊重されることを基本としながら、工賃の向上や就労に向けた具体的な計画による活動内容及び支援の向上、生活の基盤となる福祉サービスの整備、だれもが健康で生きがいをもち、それぞれの価値観や、存在意義が大切にされ安心していつまでも地域で暮らしつづけることができる支援、家族の不安と負担の軽減に努め福祉制度やサービスの利用や効果を高めていく。

勤務する職員においても福祉従事者としての専門性の向上に努め、提供するサービスの質の評価を常に行い改善を図る。また職員が健全な施設運営の基、安定した労働条件を整え保障する。

今後も利用者一人ひとりとその家族、関係者が安心して利用できるよう、理事会、評議員会、職員、家族、支援者とともに力を合わせ意思の疎通を図り、地域における社会資源として、障害者福祉推進活動の拠点となり充実・発展を目指したい。